
椅子からおちること

仲野 蓼太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

椅子からおちること

【Nコード】

N1709N

【作者名】

仲野蓼太

【あらすじ】

ある主婦の1日の中の1コマを切り抜いて、考えては消える思いを垂れ流しました

時に寂しくなつて、あーあの人に会いたい。会いたい会いたい。願っていたら初恋のことを思い出して色々考えていた。

失敗について悩むことが多くて良いことのイメージなんてほとんど浮かんでやしない。その時楽しかったことやその時嬉しかったこと。それが急に悲しい出来事になつてて今や思い出したくもない。今日そういえば田舎から荷物が届くんだと思つて椅子から立つて小さいダイニングのすみでライターでイカを炙つてみた。だって田舎からきつとビールが届くんだもの。もうビールなんてなくなつて良い気持ち。さっきさんざん嫌な思い出を思い出したからもうなんも怖くない。でもイカを炙つてたら急にイカの気持ちかわかつてしまつてもう食べたくなつた。ついでにビールもいらなくなつた。

「ピンポン」と外でチャイムが鳴つても、私もういりませんつて気持ちになつてたから、もうそれこそそんな音鳴らしても私には響きませんし、嫌がらせにしか聞こえません。でも何回も鳴らすからこれはもう警察呼ぶしかないつてことで、すぐに電話したんです。それで電話置いたらすぐにチャイムが聞こえなくなつて、あーよかつたと思つてたら今度は警察が来るんだと思ひ出してさらに嫌になつちやつた。

「ピンポン」と外でチャイムが鳴つて覗き窓から覗いたらもちろん警察がいてなんて追い返そうか考えてたら私の名前も読んではの。怖くなつて警察呼ばなきゃと思つてすぐ電話して来てもらつた。とにしてたらそこからチャイムじゃなくてドアを叩く音が聞こえて来たんです。あら、外と中を結ぶものはチャイム以外にもいろいろあるのね。なんて考えてたらじゃあチャイムがなくてドアも音が出ないようなものになつたらどうやって中と外を結ぶのかしらと考えてたら外で大家さんが私の名前を呼んでいる。あら、これは家の鍵を開けられてしまつわと思つて、あの人に会いたくなつて椅子から

立ち上がったら転んで大きな音を出してしまつて私それから記憶がないんだけど、なんか嫌な気持ちだったことだけは覚えてるの。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1709n/>

椅子からおちること

2011年1月18日21時59分発行